

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援事業所 フレンドロコペリ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月4日		～ 令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和7年1月4日		～ 令和7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々なアセスメントツールを活用して、お子さんの状態をアセスメントしていること。 ※ツール例 牧野・山田式言語、JSI-R、K式発達検査 など	一度だけでなく、定期的に様々な検査を実施し、比較を行っている。	職員一人一人が検査結果をもとにアセスメントできるように、研修等で検査について取り扱っていく。
2	定期的に研修を実施している。	障害特性についてはもちろん、利用している検査への知識を深めるものや、子供への声掛け・関わりの方法など、支援に関わる様々な情報を幅広く取り入れられるように、研修計画を立てて実施している。	専門の職員がほかの職員へ研修を実施するなど、職員同士での情報交換が出来る研修を充実させていきたい。
3	個別・小集団での活動だけでなく、お子さんの様子やニーズに合わせて、集団での活動も取り入れている。	ライフステージやお子様の状態に合わせて、個別での活動と小集団や集団での活動を取り入れている。	小学校入学へ向けた支援として、放課後等デイサービスの職員と連携しながら、出来る限り環境の変化に対応出来るスキルを身に着ける活動を実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所の方々とは職員同士での交流はあるものの、子供同士での交流の機会をあまり設けることができていないこと。	日程や内容などの連絡調整の難しさがある。感染対策等を鑑みると、実施に踏み切れないことがある。	他事業所との連絡が取りやすいように、かかわりを増やしていく
2	地域の方へのかかわりがあまりできていない。	事業所の近所の方や避難所の方々に、コンタクトをとる機会が少ない。	地域住民の方や、消防団、避難所になっている公共施設の方々にご挨拶と、支援へのご協力をお願いする取り組みを実施する。
3	定期的に子育ての情報提供の会(虹色スイッチの会)を実施しているが、新規の参加者が少ない。	会実施のお知らせ・宣伝が不足している。	地域の方々や、子育てに不安を持っているご家庭へも情報が伝わるように、市と連携していく。0才から3才の子育ての無料相談を実施しているので、広くお伝えしていく。